

愛知大学国際中国学研究センター(ICCS)

「現代中国政治とアジア世界平和構築」研究会 国際ミニ・シンポジウム

ポスト・イラク戦争の 中国外交と東アジア国際政治

講師：康 紹邦 氏 (中国・中共中央党校国際戦略研究所副所長)

講師：何 仲山 氏 (中国・中共中央党校国際戦略研究所研究員)

コメンテータ／司会：加々美 光行 (本学教授・ICCS所長)

概要： アメリカは「9・11」以後、合衆国国内の安全保障が世界規模の国際テロリズムとの戦いに密接に関連するとの国際認識を基に、「悪の枢軸」を仮想敵として、自由主義の普遍的拡大を安全保障上の戦略とするようになった。この結果、湾岸地域のアフガン、イラクと反国際テロリズム戦争を展開したが、その戦争はなお収束の段階に至らず、イラク情勢、パレスチナ情勢は不穏な状態が続いている。その一方でやはり「悪の枢軸」の一翼を担う朝鮮民主主義共和国も、核兵器開発を公言し、東アジア地域に安全保障上の問題を投げかけている。北京で開催される「六カ国協議」も容易に朝鮮半島問題を解決できず、日本の提起する「拉致問題」もあって難航を繰り返している。こうした国際情勢を中国はどのように認識しているか、またどのような外交戦略を持って臨もうとしているかを問う。

2006年3月4日 (土) 13:30～16:00

愛知大学車道校舎 本館11階K1106教室

* 講演は中国語でおこないます。(通訳あり) * 申し込み不要

【主催】愛知大学国際中国学研究センター

【お問い合わせ先】愛知大学国際中国学研究センター(ICCS)事務室

〒470-0296 愛知県西加茂郡三好町黒笹 370

Tel : 0561-36-5637 (内線 2862) Fax : 0561-36-5422 (内線 2869)

聴講無料